

医療系学生が働きかける、認知症当事者及び家族介護者、そして一般市民に向けたオンライン健康増進教室

末松 三奈 ●名古屋大学 大学院医学系研究科 地域医療教育学寄附講座 特任講師



2022年9月10日オンライン健康増進教室の中継会場で受講している様子

要旨

医療系学生(薬学生4名、栄養学生4名、看護学生2名、医学生1名)は、2チームに分かれて名城WEBキャンパスに用意した教材で学びを深め、健康増進教室の内容を検討した。特に、『認知症の人と家族の会』による、認知症家族介護者の心理ステップを学習し、認知症に関する医療の知識だけではなく家族の視点を学んだ。2022年9月10日、医療系学生は認知症をテーマとした健康増進教室をオンラインで実施した。受講者は4カ所の中継会場及びオンラインで自宅から、合計86名の方が参加した。受講者には、終了後にオンラインまたは自記式でアンケートを行い、工夫された発表がわかりやすかったと概ね好評であった。

また、学生に対しては、前後のアンケートを実施し、多職種連携教育の効果は得られていた。オンラインの課題としては、参加者は学生がどのような表情で話しているかがわかりにくいと回答した。また、学生も、聴衆の反応をリアルタイムで確認しづらかったと回答した。さらに、学生に対してインタビューを行った結果から課題を抽出する予定である。

1. 背景と目的

COVID-19の流行により、認知症当事者及び家族介護者は、デイケアや認知症カフェに行く機会が減少し、交流の機会を求めている。一方、医療系学生も、卒前教育で重要な患者(人)との交流機会が失われていた。そこで、我々は、認知症当事者及び家族介護者、そして一般市民にも届けられる「オンライン健康増進教室」を医療系学生と共に検討・実施した。

本研究の目的は、多職種の学生による認知症をテーマとした健康増進教室を、オンラインで行うことの可能性や課題について、受講者と学生へのアンケート及びインタビューを通して検討することである。

2. 活動の方法

名古屋大学地域医療教育学講座は、2014年から名城大学薬学部、名古屋学芸大学管理栄養学部、一宮研伸大学看護学部とともに医療系学生による糖尿病教室、あるいは健康増進教室を実施してきた。2022年は『認知症の人と家族の会』の協力を得て、医療系学生による認知症当事者及び家族介護者、そして一般市民に向けたオンライン健康増進教室を実施した。

医療系学生(薬学生4名、栄養学生4名、看護学生2名、医学生1名)は、「多職種連携教育」「過去の学生による糖尿病教室や健康増進教室」「認知症に関する医師・薬剤師・看護師の視点」「家族介護者の心理ステップと家族支援」、そして「家族支援としての交流会に参加された家族介護者の声」について、ビデオ教材で学習した(図1)。

また、『認知症の人と家族の会』の尾之内直美氏に認知症家族介護者の視点について補足レクチャーを受けた学生は、2チームに分かれ、それぞれ①認知症の概要として「認知症を正しく知ろう～大

切な家族を理解するために～」と、②認知症の予防として「認知症の人との生活を豊かにする～大切な家族とともに過ごすために～」をテーマに、オンライン健康増進教室の準備を進めた。約3週間、非同期及び同期型オンラインでつながり、当日の発表に向けたスライドを役割分担して作成した(図2)。

2022年9月10日、近隣ショッピング施設のホール、認知症カフェ、地域包括支援センター、ケアホームの4カ所でライブ中継を行った。その他、自宅からオンラインでの参加者を合わせると86名が医療系学生によるオンライン健康増進教室を受講した。まず、認知症サポーターの目印であるオレンジバンドから名付けられた『オレンジアイドル』が、①認知症の概要、②認知症の方との接し方、③食事の時に困ることとその対応方法、④認知症の薬を披露した(図3)。

続いて、話が聴衆に最も響くものにしたという思いから名付けられた『鮭の最響焼き』が、①認知症予防につながる食事、②薬を飲み続けるために、③介護者の不安とBPSD(認知症の周辺症状)、④認知症の人との生活を豊かにする試み、⑤認知症カフェをクイズや寸劇を用いながら発表した(図4、図5)。

3.現状の成果・考察

受講者のうち、研究に同意された方は、56名であった。「若い方の明るいトーンで聞

図1 名城WEBキャンパスにアップロードされたビデオ教材



図2 医療系学生によるオンライン健康増進教室の実施までの行程



くことができ良かった」「もっと早く聞きたかった」「テーマのネーミングが面白く、お話を聞いてみたくなる効果があると思った」「演劇形式の部分がとてもわかりやすく良かった」などの声が聞かれた。一方、「音声聞き取りづらかった」「配布資料が欲しかった」「学生がどんな表情で話しているか、直接見たかった」などの意見も聞かれた。

また、学生のアンケート結果では、多職種連携教育における学習目標である①他職種の専門性の理解、②専門職連携の重要性の理解、③オンラインでのコミュニケーションの理解が、いずれも向上した。自由記述より、「オフラインでの打ち合わせ機会が欲しかった」「オンライン教室の不具合があった」などの意見があった。一方で、実習など多忙な時期には予定の調整は困難であるが、オンラインを取り入れることでIPE(多職種連携教育)の実施が可能となる側面もあった。

4.今後の展望

以上をまとめて、国内外の学会発表及び論文作成を行い報告する。学生に対するインタビューよりさらなる課題を抽出したい。

図3 チーム『オレンジアイドル』の発表



図4 チーム『鮭の最響焼き』の発表

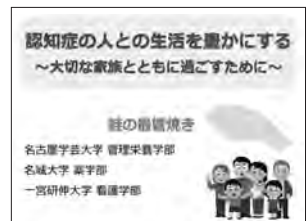


図5 チーム『鮭の最響焼き』の発表 寸劇動画の一場面

